

スペイン. 文学の旅

訳例と解答例

10. はたご屋『猫』(2), p.25

私は注意をひきたくなかったし、私のいることがあからさまな、または隠された嘲笑的的になりたくもなかったの、はたご屋の入り口の片隅に座って何か飲み物を注文した。だが、それに口をつけなかった。そして私が場違いに現れたことを皆が気に留めなくなったころ、携えていたスケッチ用のかばんから紙を一枚取り出して鉛筆を削った。その場のその日の記念に描いておきたいと思って、その土地らしさを表している人物の物色をはじめた(…)

私がモデルに選んだ褐色ですらりとした陽気な娘は女たちの間で音頭をとっていた。彼女が歌をつくり歌うと、それに合わせて仲間の娘たちは手拍子をとったり、笑い声をあげたりしていた。一方、ギターの弾き手が若者たちを率いていたが、彼はその魅力からも奔放な機知からも皆の中で抜きん出ているように見えた。

*L.1. No queriendo...はどこにかかりますか？→llamar...と que 以下の二つです。否定を繰り返すために 2 番目に ni があります。

*L.2. a un lado de は al lado de「…のそばで」という意味では？→al lado de は「…のそばで」という意味ですが、ここでは un lado de が「…の片側」、そして sentarse a de「…に座る」という意味になります。

*L.3. por el lugar はどこまでかかりますか？→en que está colocado までです。次の y las circunstancias...も por に続きます。

*L.3. の todos は具体的に誰を指しているのか？9の最後の las gentes か？→ここでは「その場にいた人々」を指します。9は「通りすがりの人」ですから、もういない人たちです。

*L.4. de dibujo は訳例では cartera にかかっていると見なしていますが、papel にかかっていると「スケッチ用紙を鞆から」と訳せませんか？→そうすると, saqué un

papel de dibujo de la cartera と書きます。やはり, la cartera de dibujo はひとまとまりです。そのことは la という冠詞が全体(cartera de dibujo)にかかっていることによってもわかります。

*L.4. mi extraña aparición ではなぜ形容詞が前に置かれているのですか？→形容詞が主観的な評価を示しているときは名詞の前に置かれます。

*L.5. con la vista の意味は？→「目で追いながら」という意味です。「目で追いながら探す」ということで「物色する」と訳しました。

*L.6. tipo は「人」に限るのか？→とくに口語で, よく「人」を指します。

*L.10. acompañada の文法関係は？→過去分詞で, 主語の La muchacha と性数が一致します。

*L.11. Parecía ser el jefe... y el que という関係ですか？→そうです。このように parecer の後に動詞が来ることもあります。

*L.11. el tocador はなぜ「ギター弾き」であることがわかろうだろうか？→このような場面では普通ギターの伴奏で, 踊ったり歌ったりします。

*L.11. parecía ser...は el jefe...と el que...の両方にかかるのではないかと訳例はそうのように訳していないようだが。→確かに両方にかかります。正確には「一方, ギターの弾き手が若者たちを率いていたように見え, 彼はその魅力からも奔放な機知からも皆の中で抜きん出ているように見えた」となります。

*L.2. más o meno の意味は？→「多かれ少なかれ, とにかく(いずれにしても)」という意味です。

●EJERCICIO, p.26

(1) 私はコーヒーをたくさん飲むと神経が高ぶる。

(2) 彼女は結婚してから人当たりがずっとよくなった。

* (2)の主語は「彼」でもよいのでは？→主語は女性です。それは *simpática* という形容詞の形でわかります。